平成 21 年　3 月　6 日

病害虫情報 Ｎｏ．12

茨城県病害虫防除所

春ハクサイのべと病に注意しましょう。

［現在の状況］

① 2 月下旬現在，べと病の発病度及び発生地点率は平年よりやや高い（表 1)。

② 向こう 1 か月の気象予報（平成 21 年 3 月 6 日気象庁発表）によると，天気は数日の周期で変わり，期間の前半を中心に，平年と比べ曇りや雨または雪の日が多いと予想され，発生を助長する条件である。

表 1　春ハクサイにおけるべと病の発生状況

発病度 1)				発生地点率（%）			
本年値	（順位）	：	平年値	本年値	（順位）	：	平年値
0.8	(2)	：	0.3	20	(2)	：	6

※順位は過去 10 年中の順位，平年値は過去 9 年間の平均値

1）1 圃場当り 25 株について発病の有無を調査し，外葉（結球葉を除く葉）の病斑面積から次式によって算出した値

発病度＝{（4A＋3B＋2C＋D）/4×調査株数}×100

A：病斑が外葉の 2/3 以上に発生し，大部分の外葉が枯死する。

B：病斑が外葉の 1/3～2/3 に認められる。

C：病斑が外葉の 1/3 以下数か所に認められる。

D：病斑が外葉の 1～2 葉に認められる。

［防除対策］

① トンネル内が多湿になると発生が助長されるので，換気によりトンネル内の湿度を低く保つ。

② 発病部位は，早急に取り除き，ほ場外に持ち出して処分する。

③ 多発すると防除が困難となるため，初期防除を徹底する。また薬剤散布にあたっては丁寧に十分な量を散布する（表 2)。

表 2　ハクサイのべと病に登録のある主な薬剤（平成 21 年 2 月 18 日現在）

薬剤名	希釈倍数(倍)	収穫前日数(日)	本剤の使用回数(回)	有効成分
ランマンフロアブル	2,000	14	4	シアゾファミド
ホライズンドライフロアブル	2,500～5,000	14	3	シモキサニル+ファモキサドン
ダコニール 1000	1,000	7	2	TPN

※農薬を使用する際は，農薬ラベルに記載の使用方法，注意事項等を守り，周辺作物への飛散（ドリフト）に注意して行って下さい。特に収穫前日数，使用回数には十分注意して下さい。